聖書日課『からし種』2025.6.29－7.6

6月29日 （日） Ⅰコリント 4章	**「わたしに倣う者となりなさい」（16節）、「彼は…キリスト・イエスに結ばれたわたしの生き方を、あなたがたに思い起こさせることでしょう」（17節）。**パウロが「わたしに倣え！」という時、それは「キリストの恵みに沈められたわたし」を意味する。「世の屑」（13 節）と軽蔑されても、彼を包むキリストの恵みのゆえにパウロは動じない。わたしは何に包まれて生きるのか。
30日 （月） Ⅰコリント 5章	**「あなたがたが誇っているのは、よくない。…いつも新しい練り粉のままでいられるように、古いパン種をきれいに取り除きなさい」（6－7節）。**当時の人々はパンの味や香りを決めるパン種の大切さを知っていた。パウロは「自分を誇る古いパン種」を取り除き、小羊として屠られたキリストだけに集中しようと勧める。キリストの恵みに味付けられたパンとなるために。
7月1日 （火） Ⅰコリント 6章	**「あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿ってくださる神殿であり・・・代価を払って買い取られたのです。だから、自分の体で神の栄光を現しなさい」（19－20節）。**「十字架の赦しゆえに何をしても自由だ！」と誤解した人びとにパウロは問う。「私たちは代価を払って買い取られ聖霊の神殿とされた。神殿として私たちは何を喜びにして生きていくのか」と。
2日 （水） Ⅰコリント 7章	**「しかし、人はそれぞれ神から賜物をいただいているのですから、人によって生き方が違います」（7節）。**結婚や夫婦のあり方について、「それぞれの賜物によるそれぞれの生き方」があると語るパウロ。「平和な生活を送るようにと、神はあなたがたを召された」（15節）。「こうあるべし」と裁くのではなく、「神のシャローム（平和）」に向かう生き方を求めていきたい。

メール配信登録メール　senfkorn.obc@gmail.com　　大井バプテスト教会

聖書日課『からし種』2025.6.29－7.6

3日 （木） Ⅰコリント 8章	**「知識は人を高ぶらせるが、愛は造り上げる。自分は何か知っていると思う人がいたら、その人は、知らねばならぬことをまだ知らないのです」（1－2節）。**パウロが言う「知らねばならぬこと」とは何だろう？「その兄弟のためにもキリストが死んでくださった」（11 節）事実ではないか。今日、誰かの前で「高ぶる自分」を知らされたなら、十字架の主のもとに帰ろう。
4日 （金） Ⅰコリント 9章	**「もっとも、わたしが福音を告げ知らせても、それはわたしの誇りにはなりません。そうせずにはいられないことだからです。福音を告げ知らせないなら、わたしは不幸なのです」（16節）。**行間からにじみ出るパウロの福音にかける情熱。「福音のためならどんなことでもする」（23節）とパウロを突き動かし続けた熱い聖霊の注ぎを、私たちも受けていきたい。
5日 （土） Ⅰコリント 10章	**「だから、あなたがたは食べるにしろ飲むにしろ、何をするにしても、すべて神の栄光を現すためにしなさい」（31節）。**十字架の主に赦された私たちは「何をしてもいいのだ！」とコリントの人たちは考えた。「何をしてもいい自由」を与えられているからこそ、その自由を誰かの喜びのため、神の喜びのために用いていこう！パウロが祈り願っているものは明確だ。
6日 （日） Ⅰコリント 11章	**「それでは、一緒に集まっても、主の晩餐を食べることにならないのです」（20節）。**その場に集まっただけでは主の晩餐にならないという聖書の指摘に、イエス・キリストの体と血に感謝する主の晩餐は、配餐の準備に始まり片づけに終わることを思う。パンと杯を大切に設置する友、身を屈めて配餐する友、来られなくても覚えて祈っている友と「一緒に」集いたい。

大井バプテスト教会